おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 26 号（1 月 6 日）

サッカー部保護者の皆様、ＯＢの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新年を迎え　決意新たに

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

2010 年、平成 22 年を迎えました。毎年のことですが、早いもので新年を迎え時が過ぎ行くのを感じます。冬来りなば春遠からじ。春が来れば、山東サッカー部にとって最重要の大会、インターハイ[1]地区・県予選が幕を開けます。現 2 年生にとってはいよいよ勝負の時を迎えます。早いものですね。2 年生の松本と千葉が、08 年 4 月に山東の練習に初めて来たときの初々しさ、そして、早々に足がつって見学していたことが昨日のことのように思い出されます。現 2 年生は自分たちの高校サッカー人生の「寿命」を感じながら、大切に時を過ごしてほしいと思います。現 1 年生も、新 1 年生を迎えれば上級生です。下級生ぶっている暇はもうないはず。サッカー選手として勝負の年を迎えることに変わりはありません。決意を新たにしてほしいと思います。

さて、現在の 1･2 年生のチームですが、昨年 6 月に新チームとしてスタートしてから、周囲の予想を上回る活躍を見せたのではないかと思います。正直、**顧問もビックリの好成績**でした。Y リーグでは早々に初勝利を上げると、その後「スイスイと」勝ち進み、3 年生の残るチームと首位争いを演じるに至りました（最終的には日大、東海に次いで 3 位）。県新人でも、選手権の県大会の決勝を戦ったチームなどを「何となく」降し、1 月末の東北新人の切符を手にしました（最終的には日大に次ぐ 2 位）。

しかしです！**自分たちの実力が不足していることは、試合を戦った選手たち自身が一番分かっているのではないか**と思います。確かに勝負強さはしばしば見せました。これはこれで重要です。でもですね、その勝負強さも重要な試合でいつも勝つようなものであれば頼りにすることもできますが、上の結果にありますように、最終的には負け続けているのです。しかも、勝ちにしても、安定感のある戦いは数える程しかありませんでした。

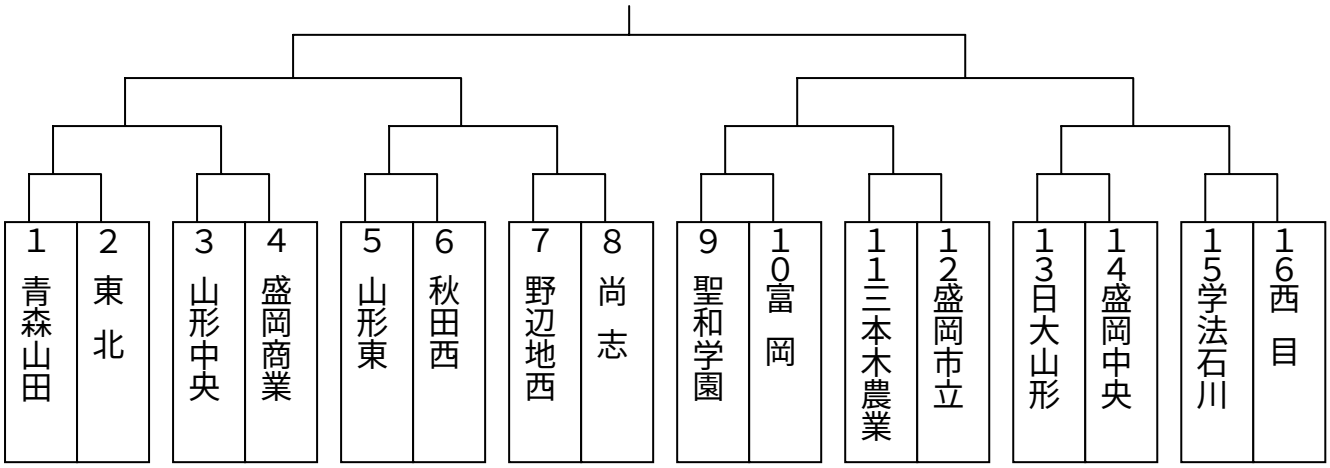
今年こそ、充実した試合内容と勝負にこだわる姿勢との両者を、追い求めたいと思います。もちろん、そこでいうところの「充実した試合内容」はチームコンセプトとかかわる難しい問題ではありますが・・・。

東北新人組み合わせ決定

東北新人の組み合わせが決定されました。1 月 29 日（金）の一回戦の相手は、秋田 2 位の秋田西高校となりました。詳しい日程･時間が決まりましたらまたご連絡いたします。

---

[1] 今年のインターハイは、なんと、**沖縄インターハイ**です❤



高校サッカー選手権を見て

年末年始、例年通り私（今野）は妻の実家のある埼玉県で過ごしました。その「地の利」を生かして、毎年、埼玉スタジアムなどに高校サッカー選手権の試合を観戦に行っております。今回も行ってまいりました。見た試合は 12 月 31 日の西武台 VS 立正大湘南、作陽 VS 松商学園、1 月 2 日の作陽 VS 西武台、山梨学院 VS 立命館宇治、1 月 3 日の矢板中央 VS 作陽、山梨学院 VS 香川西の計 6 試合です（いずれも勝った方を先に表記）。一番衝撃を受けたのが、山梨学院のテクニックと戦術眼あふれるサッカー。うまいのなんの。なかでもキャプテンの⑦**碓井鉄平君**のキックの質といったら、プロ顔負けです（判断力・戦術眼も図抜けてます、駒大への進学が決まっているとのこと）。正直モンテディオの試合に行って、あれだけのキックの質に出会ったことはありません。あとで聞いたら、山梨学院には碓井君はじめ、U１８の日本代表候補が 3 人いるとのこと。うまいわけだよ。山梨学院は強化を始めて数年しか経っていないチームで、選手の多くが J リーグのジュニアユースチーム上がり（山梨学院は FC 東京の下部組織出身者が多い）。クラブチームに支えられる高校サッカーという近年のトレンドを改めて感じさせられました。

さて、計 6 試合を観戦した中で、忘れられないシーンを一つ紹介。矢板中央 VS 作陽戦で、前半から優勢に試合を進め先制した矢板中央に対して、作陽が終盤徐々に盛り返し同点にした直後に起きた「事件」。スピードあふれ同点の立役者にもなった作陽の⑬柳君が、押せ押せムードの中でドリブルで仕掛け、ペナルティエリア内で矢板中央の選手と交錯し倒れた場面。目の前で観戦していた私の目には、PK のように見えました。おそらく矢板中央の選手を含め、多くがそう思ったことでしょう。ホイッスルが吹かれました。しかしその後、主審に 0.1 秒くらいの躊躇というか確認の時間というか、一瞬の間がありました。なんだ、と思っていたら、判定はシミュレーションによるオフェンスファール（柳君への警告）。スタジアムがどよめきました。試合が荒れるか、と思われました。しかし、作陽の選手・スタッフはすぐ気持ちを切り替えてプレーし、程なくしてタイムアップ。その後の PK 合戦で作陽は敗れてしまいましたが、**あの時間帯で、あのプレーで、PK がもらえず、それでよく選手・スタッフがしつこい異議をしなかったものだ、と感心させられました。**試合に賭ける思いを持つことも重要ですが、選手・レフリーから成り立つサッカーのゲームをリスペクトすること（ということは、そこで起こったことを涙を流しても受け入れ尊重するということ）が重要だと改めて考えさせられました。さわやかな態度であった作陽に幸あれ！レベルが違いすぎますが、そのさわやかさは山形東も見習いたいです。